

ラオス、中国と高速鉄道

事業費5700億円、15年完成へ

【ハノイ＝岩本陽二】ラオスが隣国の中国と共同で東南アジア域内初となる高速鉄道を建設する。総事業費は70億ドル(約5740億円)で4月に一部区間で着工、2015年の完成を目指す。中国が主導するインドシナ半島からマレー半島に至る広域鉄道網整備の第1弾で、昨年1月から本格化した貿易自由化に続き、中国と東南アジア諸国連合(ASEAN)の経済一体化を加速させることになりそうだ。

東南アジア一体化を加速

中国、ラオス両国は過去数年にわたり高速鉄道を事業の具体化の事業化調査(FS)なを結んだ。



中国側には昨年、ASEANとの間で発効した自由貿易協定(FTA)の実効性を高める狙いがある。雲南省の昆明からラオス、タイ、マレーシアなどを通してシンガポールに至る高速鉄道を利用し、高い経済成長を続けるASEAN各国への輸出拡大を期待する。

一方、ラオス側は一大消費地であり生産基地でもある中国とASEAN各国を連結することで、内陸国のラオスを陸上貿易の中継拠点として整備

する戦略。ラオスのメデアイによると、ソムサワット副首相は「高速鉄道でラオスは周辺国を結び

つける役割を持つ国に生まれ変わる」と強調した。高速鉄道はラオスの首都ビエンチャンと中国国境に近い北部の街ボーテンの421キロを結ぶ。山間部を通るため全体のうち、190キロはトンネルとなる。橋梁部分は90キロ。将来はビエンチャンからタイ北部に延伸。その後、首都バンコクまで直結する計画だ。旅客列車は時速200

20時間以上かかるが、完成時には移動時間が3時間程度に短縮する可能性がある。ラオスを代表する観光地の古都ルアン普拉バンなどを15力所追加する案を検討中。山間部や河川沿いなど工事の難しい場所が多いため、完成が予定より遅れる懸念もあるという。

プロジェクトはラオスと中国企業などの共同事業体(JV)が請け負い、建設から運営まで一貫して手掛ける。参加企業など詳細は明らかになっていないが、ラオスと中国の出資比率は3対7になる見通し。ラオス側は資金拠出が難しいため、土派遣する。

地提供などで事業費を賄うとみられる。ラオス政府はこの事業を機に鉄道の運営ノウハウを学ぶため、中国に研修生も派遣する。